

会社OBの労働力を生かし、遊休農地を再生 (株式会社 阿部土建エンタープライズ)

＜法人の概要＞

所在地：岩手県葛巻町

設 立：昭和29年4月

資本金：2,500万円 売上高：50,000万円（平成24年）
（うち農業：170万円）

役 員：4名（うち農作業従事1名）

従業員数：37名、うち農業従事者3名

経営面積：1.4ha 営農作物：野沢菜、菜種、イチゴ

農業開始時期：平成22年4月



満開の菜の花畑



菜種の収穫作業

＜農業参入に至った経緯・動機＞

代表者の親族が高齢により農業を続けられなくなったため、遊休農地の防止に繋がれば少しでも地域貢献できると考え、日頃から興味があった農業への参入に至った。

農業を始めた当初は、投じたコストに対して利益が少なく、作付作物についても十分検討する必要があると感じたが、現在は徐々に生産性が上がっている。

＜農業参入することを決めてから営農開始まで＞

参入前は、農業に関する知識が乏しかったため、代表者自らが各種研修会に参加した。農業参入までの準備期間は半年程度で、農地は代表者の親族所有地のほか農業委員会の斡旋により確保し、農業用ビニールハウス（3棟）は農協の仲介により不要となった農家から購入した。

作物の選定にあたっては、近隣農家及び農業委員会等の助言を受けながら、農地の状況に適したもの、あまり手間や労力がかからないもの、農業用ビニールハウスを利用できるもの、町の推奨作物など、さまざま検討のうえ決定した。

＜営農開始から現在まで＞

栽培技術については、定期的に農業改良普及センター職員や町内のイチゴ栽培農家等に指導を受けているほか、県主催の営農研修会にも積極的に参加している。

営農開始から4年経過し、徐々にではあるが栽培技術も向上し、生産額も増えてきている状況である。従事者は、会社OBを常時雇用し、収穫期には臨時雇用で対応している。また、公共工事の発注が少ない時期には、本業に従事する社員も野沢菜の種まきなどの農作業ができることから、一時的に仕事を休ませることなく、雇用面でも役に立っている。経費面では、土壌改良薬剤費の助成や町高齢者雇用交付金の利用により負担軽減が図られているが、今後は助成がなくても採算がとれるよう努力したい。

＜今後の農業経営の展開方向＞

将来的には経営規模の拡大を目指したいが、まずは今の生産基盤を固めることが先決と考えている。特に、イチゴ栽培に力を入れ、利益率の高い農産物として軌道に乗せたい。

現在、収穫したものは全て農協に出荷しているが、将来的には自らも販売に取り組む農業の6次産業化を検討している。

＜今後農業に参入しようとしている法人へのアドバイス＞

農業は、土壌管理や栽培技術など多くの知識や経験が必要であり、一定の成果が現れるまで時間がかかる。天候にも左右されるため、安易な気持ちでの参入は勧めない。特に設備投資が必要な場合、代表者自らが相当な覚悟をもたないと継続的な営農は難しく、将来への展望も開けないと思う。



野沢菜の収穫作業



イチゴ栽培指導を受ける従業員